



1636年～1869年(約230年)

# 伊予西條藩を知る ⑩



(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家

第7代藩主 松平頼看 (在任期間 1795～1797年)

第8代藩主 松平頼啓 (在任期間 1797～1832年) 文政時代

第7代西條藩主松平頼看(よしみ)は、第6代藩主松平頼謙の長男で、寛政7年(1795年)8月に父の隠居に伴い23歳で西條藩主となった。病身のため、在任18か月のうち、実際に藩政に携わったのは4ヶ月ほどであった。寛政9年1月父頼謙より先に死去(享年25歳)した。

第8代西條藩主松平頼啓(よりゆき)は、第6代藩主松平頼謙の三男で寛政9年(1797年)14歳で兄頼看の跡を継ぎ、文化年間の初め頃、西條に西條藩学問所(藩校)設立。天保2年(1831)松平頼啓侯により江戸藩邸と同名の「擇善堂(たくぜんどう)」と命名され、藩士子弟の教育を奨励した。



講堂・素読所・寄宿舍・書庫・炊事場等の建物が整備され、教官には江戸で儒学を学んだ小松藩近藤篤山の弟・三品容斎(宅平|1769～1847)・近藤篤山の弟子日野和煦(暖太郎|1784～1858)などが当たり、多くの人材を輩出している。擇善堂(西条小学校の前身)は、当初西條東堀端(陣屋の北方御殿通り)に創設され、後文久年間に西条北堀端(旧西條小学校)に移転した。生徒は凡そ200人で、内20人は寄宿生。外に10人の官費支給生がいた。西條藩では、士・卒を問わず武士の子弟は七歳で藩校に入学し、初級では大統哥・四書を、第一級で五経、第二級で十八史略・国史略、第三級で三史略講義等の素読をうけた。一三～四歳になると寄宿舍に入り、初級では新策・孟子・史記、第一級では論語・外史・孫子、第二級では左伝・令義解、第三級では漢書・六国史を自習し、疑義について教官に指導をうけた。授業は午前8時～午後2時までで、毎月行われる試験によって進級の可否が決められた。「3度落第したものは3カ月間試験を受けることができない。」というような規定もあった。

藩校はあくまで、武士の子供たちへの教育であって、武士以外の子供たちは入学することが出来なかった。毎年1月4日が入学日であった。

今	西	松	吉	小	新	大	藩
治	条	山	山	松	谷	洲	名
今治講書場(克明館)	西条扶善堂	松山興徳館	吉田時観堂	小松培達校	新谷求道軒	大洲止善書院明倫堂	藩校名
文化二年(一八五〇)	文化二年(一八五〇)	文政二年(一八二〇)	寛政六年(一七九四)	享和三年(一八一三)	天明三年(一八二三)	寛延元年(一七七八)	開設年

**市指定歴史資料**  
**擇善堂の扁額**

この額は西条藩(藩校)擇善堂(西条小学校の前身)の額です。たて47センチメートル、よこ95センチメートル、厚さ4センチメートルの一枚板で、西条藩第八代藩主松平頼啓侯の筆になったものを浮彫したものです。

擇善堂は陣屋の北堀端に設けられ、日野和煦、三品宅平が教官でした。明治元年には尾崎山人(星山)が教官となり、ついで学頭となりました。教育の中心は朱子学で、指導陣には教授2名、助教3名、句読師5名であったといわれています。

明治5年(一八七二)の学制で、擇善堂も廃校となりましたが、扁額は擇善小学校に引継がれ、西条小学校の現在まで残されています。

昭和四十五年八月五日指定

伊予八藩の藩校の開設状況

参考資料：西條市誌(西條市)、西條人物列伝(西條郷土史研究会)、池畔の柳影(愛媛新聞社)、

愛媛県生涯学習センター「えひめの記憶」、西条市生活文化誌(西条市)、西條史談(西條史談会)